

各支部長  
及び理事長 殿

鹿児島県軟式野球連盟  
会長 稲葉 直寿

令和6年度の県連関係の取扱いについて（通知）

記

令和6年度の登録、負担金関係及び大会開催に関しては、下記のとおり取扱いますので、各支部役員及び加盟チームに周知徹底されるよう通知いたします。

1 役員名簿等の提出について

名簿等	送信締切	備考
① 支部チーム・チーム構成員報告書	〈メール送信締切〉	《全軟連登録》
② 支部役員名簿	令和6年	県代表チームが全国大会へ
③ 支部審判員名簿	3月31日（日）迄	出場場合の条件は、全支部
④ 支部チーム・チーム個人登録総括表	ただし、少年・学童	の全軟連への登録が必要で
⑤ 選手登録名簿（県連大会用）	は4月20日（土）	す。
（一般・少年・学童・成年・実年・還暦）	迄	期限を厳守下さい。

※ 令和6年度迄は従来通り「エクセルでの登録」、令和7年度から「競技者登録システム」での登録となりますが、天皇賜杯大会は、令和6年度から競技者登録システムでの大会エントリー（参加申込）となります。

☆ 各名簿及び大会要項は、鹿児島県軟式野球連盟のホームページに掲載します。支部事務局は、様式をダウンロードし、確認の上支部メールから県連メールに送信すること。

なお、令和6年度からチーム構成員名簿の記入が（選手（男女）・監督・コーチ）に変更になっているので、誤りのないように記入してメール送信のこと。（登録人数は25名以上）

☆ 個人登録料については、登録後に新加入選手や構成員の追加がある度に、登録料を振り込む必要があり、その度に振込手数料が必要なことに考慮し、令和6年度から1回目を6月末までに、その後の追加分個人登録料を10月末までにまとめて納付願います。

2 負担金及びチーム登録料の振込先等について

（単位：円）

	審判員	一般	成年	実年	還暦	学童・少年（中学）
チーム登録料 （納付時期）	2000円 （登録時）	負担金 （登録時）	10000円 （登録時）	10000円 （登録時）	10000円 （登録時）	5000 （登録時）
<u>個人登録料</u> <u>（納付時期）</u>	—	200円 <u>（6月末）</u>	200円 <u>（6月末）</u>	200円 <u>（6月末）</u>	200円 <u>（6月末）</u>	50円 <u>（6月末）</u>
振込先	【負担金・チーム登録料】 鹿児島銀行高見馬場支店 普通 1570023 鹿児島県軟式野球連盟 理事長 四枝 勉		【個人登録料】 鹿児島銀行伊敷ニュータウン出張所 普通 3026530 鹿児島県軟式野球連盟 理事長 四枝 勉			
住所等	（鹿児島市泉町2番3号・099-800-9264）					

- ※ 負担金及び各種別チーム登録料等は3月31日(日)までに納付のこと。(少年は4月20日)
- ※ 個人登録料の納付は、(全種別：学童・少年含む)とも下記の通りとします。

◇ 1回目 ⇒ 6月末に各支部まとめて、県連指定口座に振込むこと。

◇ 2回目 ⇒ 以後の追加登録分は10月末に納付のこと。

なお、チームで納付の場合、チーム名又は学校名での納付のこと。(個人名は厳禁)

- ※ 登録名簿の提出と、登録料の納付は全軟連締切があるので期限厳守のこと。

### 3 大会参加料について

(単位：円)

	一般	成年・マスター	実年・シニア	還暦・オールド	学童・少年(中学)
参加料	(7回戦) 17000	17000	20000	20000	〈学童〉 ◇ (7回) 9000 ◇ (県大会) 12000 ◇ (九州) 13000 ◇ (マドトーナ) 15000
	(9回戦) 25000 (A級・国体)				〈中学・少年〉 ◇ 全て 15000

#### ※ 大会参加料の納付について

大会参加料は、大会参加申込書(メール)と同時に下記県連口座へ振込んでんでください。

◇ 振込先 鹿児島銀行 伊敷ニュータウン出張所

普通預金 3026530

鹿児島県軟式野球連盟 理事長 四枝 勉

### 4 大会出場補助金について

<該当大会>

	九州大会 10,000円	全国大会 30,000円
一般	① 第47回九連会長杯(2チーム) ② 第68回高松宮賜杯大会(1部) ③ 第19回日本スポーツマスターズ ④ 第68回高松宮賜杯大会(2部) ⑤ 第31回九州成年選抜 ⑥ 第23回全九州実年大会 ⑦ 第18回九連還暦野球大会	① 第46回西日本大会(1部) ② " (2部) ③ 第7回全日本シニア ④ 第68回高松宮賜杯大会(1部) ⑤ 第19回日本スポーツマスターズ ⑥ 第79回国民スポーツ大会 ⑦ 第79回天皇賜杯大会 ⑧ 第68回高松宮賜杯大会(2部) ⑨ 第28回西日本選手権大会
学童	① 第37回九州学童大会(2チーム) ② 第52回スポーツ少年交歓大会(2チーム) ③ 第22回王貞治杯大会	① 高円宮第44回全日本学童(マド) ② 第52回スポーツ少年交歓大会(4年毎)
少年・中学	① 第41回全日本少年大会 ③ 第6回九州少年軟式大会 ④ 第21回九州中学選抜大会	① 第41回全日本少年大会 ② 第15回全日本少年春季

- ※ 補助金交付申請チームは、別紙「全国大会等出場補助金交付申請書」と「領収書」に必要事項を記入・押印の上、県連事務局に送付のこと。(領収書には日付を記入しない。)

### 5 大会参加申込について

- ※ 「参加申込書」については、支部送信メール（支部メールアドレス登録届分）のみ受付とします。（支部長印不用）  
 なお、支部事務局が参加申込書をメール送信する際は、記載漏れ・背番号順等を確認し締切迄に送信のこと。（締め切り後のメールは受理しない）
- ※ 抽選・大会結果は県連ホームページに掲載する。
- ※ 登録名簿等の締切前に開催する県大会（西日本1・2部）については、参加申込書と登録名簿を一緒に送信のこと。

6 Aクラス（A級）の出場大会について

- ◇ 「第47回九州連合会会長杯軟式野球選手権県予選」
  - ◇ 天皇賜杯「第79回全日本軟式野球権大会」
  - ◇ 「第28回西日本軟式野球選手権県大会」
- ※ 令和6年度上記Aクラス大会に出場したチームは、「西日本1・2部」大会や、「高松宮賜杯1・2部」大会等の支部・県予選には出場できない。（支部で確認のこと）

7 県大会等の参加資格について（国民スポーツ大会以外は、支部1の要件を緩和）

大会名	参加資格	年齢基準	支部出場枠
国民スポーツ大会	① 日本国籍を有する者（特例有） ② 前回、前々回の大会と異なる都道府県からの参加はできない。（例外有） ③ その他は要項の通り。	・選手は平成18年4月1日以前に生まれた者（基準日は令和6年4月1日）	支部1チーム及び前年度優勝チーム 但し、鹿児島4始良2チーム
日本マスターズ	・全軟連規程第6条第2項に定める「チーム会員の編成等」のとおり。	・選手は昭和59年4月1日以前に生まれた者（40歳以上）	支部 1 （当面支部1の要件を緩和）
九州成年	・全軟連規程第6条第2項に定める「チーム会員の編成等」のとおり。	・選手は昭和59年4月1日以前に生まれた者（満40歳以上）	支部 1 （当面支部1の要件を緩和）
九連還暦 県還暦	・県内に住所又は職場がある者。	・選手は昭和40年4月1日以前に生まれた者	支部 1 （当面支部1の要件を緩和）
全日本シニア	・県内に住所又は職場がある者。	・選手は令和6年4月1日現在満50歳以上	支部 1 （当面支部1の要件を緩和）
全九州実年	・県内に住所又は職場がある者。	・選手は令和6年4月1日現在満50歳以上	支部 1 （当面支部1の要件を緩和）
オール・ボーイズ （450）	・全軟連規程第6条第2項に定める「チーム会員の編成等」のとおり。 県内居住者であればどの支部からでも出場可。	・令和6年4月1日現在満40歳以上の者で編成し、出場選手の合計年齢が常時450歳以上	支部 1 （当面支部1の要件を緩和）

8 年齢と出場（登録）種別要件について

種別 年齢	一般 (年齢制限無)	成年・マスターズ (40歳以上)	実年・シニア (50歳以上)	還暦 (59歳以上)
40歳未満	○	×	×	×
40歳以上50歳未満	○	○	×	×
50歳以上59歳未満	○	○	○	×
59歳以上	○	○	○	○

※ 出場（登録）種別は、上記資格要件に当てはまる場合、全て出場（登録）を認める。

9 指名打者ルールの使用について

- ◇ 全軟連（県連）主催大会は、指名打者ルールを使用できる。（学童部・少年部含む）  
但し、少年・学童大会は、二刀流選手は採用しない。（大会実施要項に記載済み）

10 学童部バットの制限について

- ◇ 学童部の一般用バットの使用は認められてきたが、安全面を考慮し一般用バットのうち打球部に弾性体を取り付けたバットの使用を 2025 年より禁止する。  
なお、一般用バットの木製・金属・カーボン・複合（金属・カーボン）バットの使用制限は行わない。  
（2024 年は猶予期間）

11 日本スポーツマスターズ大会における JSPO 公認指導者資格の保有義務化について

- ◇ 導入年：2025 年（令和 7 年）日本スポーツマスターズ 2025 愛媛大会
- ◇ 対象資格：JSPO 公認コーチ 1 及び公認コーチ 3
- ◇ チーム内の最低 1 名の監督もしくはコーチ
- ※ JSPO 公認指導者資格養成講習会の受講を 2024 年に完了した場合の最短資格認定は、2025 年（令和 7 年）10 月 1 日になる。この場合、日本スポーツマスターズ大会 2025 愛媛大会には資格保有者として参加できない。  
このことから、現在 JSPO 公認指導者資格保有者を監督又はコーチとしてメンバーに入れる必要がある。

12 県大会優勝チーム選手全員の写真撮影について

- ◇ 県大会優勝チームは、ホームページに選手写真を掲載する。  
県大会受託支部においては、優勝チームの集合写真を撮影して県連に PDF で送信すること。なお、掲載の有無については、個人情報の関係でチーム判断とします。

13 令和 7 年度からのチームおよびチーム構成員の登録方法

※競技者登録システム利用の場合

【登録】

競技者登録システムでチーム登録した登録情報を上部団体が承認することで、登録完了

【納入】

登録システムを使って全軟連が都道府県支部へ登録料（チーム登録料、個人登録料）の請求をし、都道府県支部は、末端支部より振込まれた登録料を全軟連の請求に基づき指定口座振込む。

14 連盟規程細則の改訂について

ページ	現行（2023）	改訂（2024）
P 38	<p>（国体の予選会等）</p> <p>第 6 条 国体の予選会を行う場合は、末端支部予選会より実施しなければならない。</p> <p>2 支部予選会を行って、ブロック予選会の代表権を得たチームは、支部予選出場チームから補強し、ブロック予選会に出場することができる。</p>	<p>（国体の予選会等）</p> <p>第 6 条 <u>国スポ</u>の予選会を行う場合は、末端支部予選会より実施しなければならない。</p> <p>2 支部予選会を行って、ブロック予選会の代表権を得たチームは、支部予選出場チームから補強し、ブロック予選会に出場することができる。<u>なお、ブロック予選会の申込の際、予備登録選手を 25 名を登録す</u></p>

	<p>3 ブロック予選会に出場したチームは、メンバー表を変更して本国体に出場することはできない。ただし、疾病、傷害等の特別な場合は資格審査の上、認めることもある。その届出は別に定める国体参加資格の規定による。なお、北海道大会はブロック予選会と位置づける。</p>	<p><u>ることができ、その中の16名（監督含む）がブロック大会に出場することができる。</u></p> <p>3 ブロック予選会に出場したチームは、<u>ブロック予選会に出場したメンバーを予備登録選手内から変更して本スポに出場することができる。</u>また、<u>疾病、傷害等の特別な場合は資格審査の上、予備登録選手内からの変更を認めることもある。</u>その届出は別に定める国体参加資格の規定による。なお、北海道大会はブロック予選会と位置づける。</p>
P43	<p>(用具、装具等) 第12条 5 (2) 袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。また、他のものをつけてはならない。なお、右袖には、社章、商章、クラブのマスコット等をつけることは差し支えない。</p>	<p>(用具、装具等) 第12条 5 (2) 袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。また、<u>都道府県に関連するものをつけることは差し支えないが、その他のものをつけてはならない。</u>なお、右袖には、社章、商章、クラブのマスコット等をつけることは差し支えない。 ※別紙見本(北海道・青森県チーム) ※青森県地図はユニホーム下地の柄・模様と捉えられ左右対称でなくてもよいことを全軟で確認された。</p>

### 15 競技者必携の改訂について

ページ	現行 (2023)	改訂 (2024)	理由
P45 1行目 P54 2行目	<p>8 シートノック (1)～(4)までそのままし(5)を追加する。</p>	<p>8 シートノック (1)～(4)までそのままし(5)を追加する。 (5) <u>シートノックを行うことができない補助員もいることから、ベンチ前でのサイドノックを認める。</u></p>	
P47 3行目	<p>20 試合中、ベンチ前のキャッチボールを禁止するが、ブルペンでのキャッチボールは2組4名以内を認める。</p>	<p>20 次のイニングで引き続き投げる投手は、<u>ベンチ正面でのキャッチボールを禁止するが、ベンチ外野側角からポール方面のフェアレトリリーでの軽いキャッチボールは認める。</u>また、ブルペンでのキャッチボールは2組4名以内を認める。</p>	
P48 下から 2行目	<p>3 タイブレイク方式 現状：0アウト・二塁、継続打順</p>	<p>3 タイブレイク方式 2024年野球規則には、0アウト二塁継続打順と掲載されるが、全軟連は現状のまま0アウト・二塁、継続打順とする。</p>	P37 規程細則に合わせる。
P53 16行目	<p>登録され・・・各1名とする。ただし、監督、コーチは成人者でなければならない。</p>	<p>登録され・・・各1名とする。ただし、監督、コーチは<u>20歳以上</u>でなければならない。</p>	
P67	<p>11 試合が開始されたら、控え選手は試</p>	<p>11 試合が開始されたら控え選手は、<u>むやみ</u></p>	(1)は従来どお

6行目	合に出場する準備をしている者の他はベンチの中にいなければならない。ただし、攻守交代時に限り、控え選手がファウルグラウンドで外野の方向へランニングすることを認めるが、控え選手がベンチを出て… (省略)	<u>にベンチから出てはならない。</u> ただし、次のことを認める。 (1)攻守交代時にファウルグラウンドでランニングをすること。 (2)攻守交代時に自チームの練習をベンチ前で見守ること。ただし、球審の「プレイ」宣告までにベンチに戻ること。 <u>(3)攻守交代時に外野手とキャッチボールをすること。</u>	り (2) 改訂 (3) 新規
P67 下から 6行目	§4 試合のスピード化に関する事項 (1) 監督またはコーチ等 (少年部・学童部・女子大会は三。以下同じ) が1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内とする。 なお、延長戦 (タイブレーク方式を含む) は、1イニングに1回行くことができる。 ただし、投手交代の場合は回数に含まない。 (2) 監督またはコーチ等が1イニングに同一投手のもとへ2度目に行くか、行ったとみなされた場合・・・投手は自動的に後退しなければならない。 (5.10f)	§4 試合のスピード化に関する事項 (1) 監督またはコーチ等 (少年部・学童部・女子大会は三。以下同じ) が1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内とする。 なお、延長戦 (タイブレーク方式を含む) は、1イニングに1回行くことができる。ただし、投手交代の場合は回数に含まない。(5.10f(2)は適用しない) (2) 削除	(1)の末尾に追記 (2)削除 《理由》 投手のもとへ行ける回数を3回と決めているので、1イニングに2回いってもペナルティを適用しない。(ルールを分かりやすくするため。)

#### 16 没収試合防止に向けて (全軟連通知)

- ◇ 全日本野球協会からアマチュア野球各団体の試合において、登録外選手の出場あるいはメンバー表の誤記などの単純ミスにより、没収試合とされたケースが後を絶たない。  
 没収試合は、規則4.07【注1】に記載のとおり、審判員がとるべき最終手段であり、安易に適用されるべきものではなく、大会主催者や当該チーム及び審判員が十分注意すれば最悪の事態は避けられるはずである。

#### 17 捕手」(審判員)用マスクのSG基準義務化に係る特例措置の終了について

- ◇ 標記審判用マスクのSG基準義務化は、コロナ禍の原材料不足等を理由に2023年は義務付け緩和期間となっていたが、この猶予期間を2024年までとし、2025年から義務付けが行われます。  
 また、軟式野球連盟では、ユーザー及びメーカーの購入及び製造・販売に係る経費負担軽減を目的に捕手用マスク・プロテクター・レガーズの軟式野球とソフトボール兼用商品の販売を承認することが決まった。
- 統一商品  
 捕手用マスク・プロテクター・レガーズ (ヘルメットは対象外)
  - 公認マーク
    - ・ 軟式野球とソフトボールのマーク入り
    - ・ 捕手用マスクは、SGマークと「軟式」「ソフト」の表記となる。
    - ・ 現在の「JSBB表示のみ」製品の使用も可能

18 試合開始前及び試合終了後の整列方法について

◇ 2024年シーズンからコロナ禍前の整列方法に戻す。

○ 監督の整列・挨拶

・学童・少年：監督はベンチ前で整列・挨拶

・一般：監督も選手同様に本塁を挟み整列・挨拶

19 全軟連の事業方針と「No! スポハラ」について

・全軟連の令和6年度の事業方針の育成方策の中で、特にジュニア層の競技者が障害に悩まされることなく、その後のライフステージにおいても安全に競技が取り組めるよう競技会のあり方、規則の検証と導入、指導者の意識改革に努め野球活動環境改善を重点的に実行する。

また、日本スポーツ少年団の会議で、同少年団では全国大会が必要なのか、小さい時から優勝目指していることがスポハラの原因の一つになっているのではとのことで、全国大会の在りかた等を含め意見調整をするとともに、「No! スポハラ」活動を積極的に進めていくとのこと。

なお、スポーツを通じてスポハラの相談件数が一番多いのが野球と言われていることから、全軟連でも本腰を入れて「No! スポハラ」を広げていきたいとのこと。

また、今年1月開催された、鹿児島県スポーツ協会の「競技力向上ステップアップ研修会」でもスポハラについて個々の事例（あだ名もスポハラに該当）を列挙し「No! スポハラ」を各競技団体でも取り組むようにとの指導があった。

□ 県連書類等送付先及びメールアドレスの変更について

◇ 新メールアドレス

**info@kagoshima-rubberbaseball.club**

(書類送付先及び県連メールアドレス)

〒892-0822

鹿児島市泉町2番3号 相信本店ビル3F

鹿児島県軟式野球連盟事務局

理事長 四枝 勉 宛

**innfo@kagoshima-rubberbaseball.club**